

令和5年5月1日

令和4年度研究開発報告

住所 奈良県奈良市登大路町30番地
管理機関名 奈良県教育委員会事務局
代表者名 教育次長 山内 祐司

令和4年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発実施内容を、下記のとおり報告します。

記

1 事業特例校名・類型

学校名 奈良県立王寺工業高等学校
学校長名 村井 博樹
類型 プロフェッショナル型

2 令和4年度研究開発実施概要

日本の課題である人口減少や少子高齢化やつながりの希薄化を解決し、来たるべきSociety5.0に対応した地域活性化を担う人材を育成することを目的とする。目指すべき人材像を以下の(1)～(3)と設定した。

- (1) 地域の魅力を高めるための幅広い知識・技術を有する人材
- (2) 複雑な状況変化に対応し、協働して課題解決できる人材
- (3) 多様な価値観を尊重し、新たな価値を創造できる人材

企業との包括協定を積極的に活用し、地域課題の解決を通じて探究的な学びを具現化し、未来を切り拓く資質・能力の育成と、次代の地域を担う人材の育成に資する、教育実践及び教育課程研究開発を目指す。

実施内容は以下の①～⑧である。

- ①コンソーシアムの設立準備
- ②企業との連携事業（新カリキュラムの開発）
実習や課題研究での連携
- ③奈良県版デュアルシステムの実施
- ④社会人講師の活用
シバタ製針(株)社会人講師による旋盤実習
- ⑤地域との連携による主体的・対話的で深い学びに関する取組
地域との連携による高等学校教育改革推進事業 全国サミットへの参加

(別紙様式5)

探究心を育むカリキュラム開発（学校設定科目）

- ⑥教員の資質向上研修
- ⑦グローバルおよび Society5.0 に対応する地域人材の育成強化の取組
- ⑧その他 生徒の主体的・対話的で深い学びに向けた取組

3 教育課程の特例の活用（□で囲むこと）

- 学校設定教科・科目を開設している
- イ 教育課程の特例の活用している

4 コンソーシアムについて

①コンソーシアムの構成団体

- ・奈良県教育委員会
- ・一般社団法人 奈良県経済産業協会
- ・奈良県産業・観光・雇用振興部 奈良県産業振興総合センター
- ・DMG森精機(株)
- ・関西電力送配電(株)
- ・奈良県立王寺工業高等学校

②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和4年6月21日	構成団体と、オンラインを用いた学習に関する打合せを実施。今後継続して打合せを実施予定。
令和4年11月22日	構成団体の研究会および交流会に参加。構成団体以外にも交流し、今後のコンソーシアムについての知見を得た。
令和5年2月24日	構成団体の研究会に参加。今後の協力体制について検討を実施した。

5 研究開発の実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンソーシアムに関する打合せ			1回					1回			1回	
DMG森精機関連事業								1回			1回	
デュアルシステムの実施		3回	4回	5回	5回	2回	2回	4回				
社会人講師の活用	3回	3回	4回	7回	3回							

(別紙様式 5)

全国サミット・成果報告会への参加										1 回		1 回
学校設定科目 (Research&Discovery) に関する打合せ				1 回	1 回							
金沢工大との連携研修				1 回						1 回		
プログラミング教室の 実施				1 回						1 回		
課題研究発表会の実施 (校内および全校)										3 回	1 回	

(2) 実績の説明

①コンソーシアムの設立について

構成団体と打合せを実施し、設立に向け進めてきたが至らなかった。

②企業との連携事業（新カリキュラムの開発）

DMG 森精機との連携を実施。連携実習を継続している。また、デュアルシステムでは奈良県内にある先進企業（株式会社ノムラ（橿原市））を選定し、本校に貸与されている工作機械と同型機を用い、実習をすることができた。

③奈良県版デュアルシステムの開発

県内企業である GMB(株)（川西町）および(株)タツミ（橿原市）と連携することにより、企業内で実習行い、生徒の興味関心を引き出す取組を継続実施している。

④社会人講師の活用

県内企業であるシバタ製針(株)と連携し、厚生労働大臣卓越技能者（現代の名工）を受賞されたマイスターを招き、旋盤に関する技能講習会を実施し、高度な技能を習得することができた。

⑤地域との連携による主体的・対話的で深い学びに関する取組

全国サミット等への参加を継続実施。また、学校設定科目（Research&Discovery）に関する企業との連携を実施し、科目内で企業との連携を行った（東邦工機株式会社（大和郡山市））。

⑥教員の資質向上研修

金沢工業大学との連携により、8月には、指導と評価の一体化に関する研修会（受講者：本校教員 20 名）を実施した。また、1月には大学の担当准教授を本校にお招きし、実習を中心に見学、助言指導をいただいた（基礎教育学部 教職課程 准教授 木村竜也氏）

⑦グローバルおよび Society5.0 に対応する地域人材の育成強化の取組

英検合格者を増やすための施策を検討し、一部実施した。また、高校生によるプログラミング教室を地元中学生向けに実施することができた。

⑧その他 生徒の主体的・対話的で深い学びに向けた取組

課題研究発表会を実施した。本年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受けることなく、各科の発表会および全校の発表会を実施することができた。

(別紙様式 5)

(3) 研究開発の実施体制について

構成団体における担当者がコーディネータ業務を担っている。社団法人奈良県経済産業協会の担当者には県内企業との連携の調整を行い、本校の教育ニーズを満たした企業を紹介していただいた。また、奈良県産業振興総合センターの担当者には、本校との連携内容の検討を継続して進めていただいた。

(4) 次年度以降の課題及び改善点

令和4年度がこの研究開発の最終年度であり、コンソーシアムの設立を目指していたが至らなかった。原因としては構成団体の個別とは、様々な教育活動も実施し関わりを持っていたが、構成団体全体の打ち合わせや調整が進まなかったからである。今後、個別の関わりを見直し、全ての構成団体と関われるような体制を整え、コンソーシアム設立を目指して行きたい。

【担当者】

担当課	高校の特色づくり推進課	TEL	0742-27-9853
氏名	乾 祐士	FAX	0742-23-4312
職名	指導主事	e-mail	inui-yuji@office.pref.nara.lg.jp